（8）具　同　小　学　校

学　　校　　長　中平　泰史
校内研究代表者　松浦　愛

１．研究主題

「　安心できる学級・学校づくり　～生徒指導の三機能を生かし、子どもの主体性を育てる～　」

２．主題設定の理由

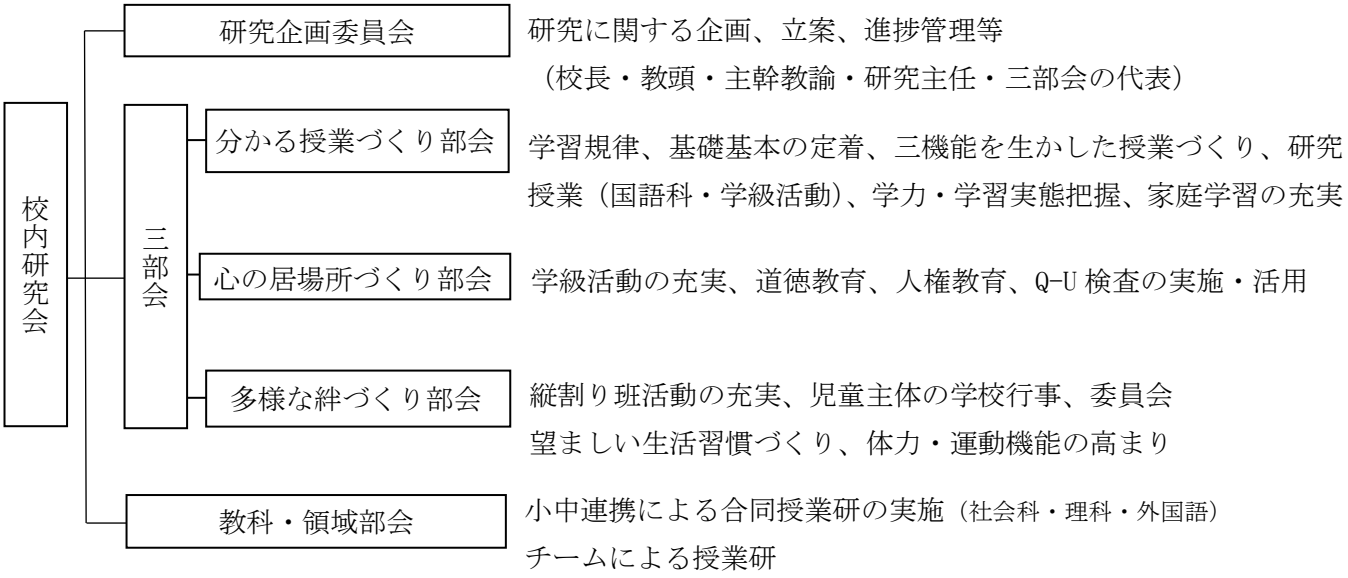
本校は西部管内の小学校で最も児童数・教職員数が多い学校である。児童の実態からすると、養育不足等の家庭的な背景を抱える児童や発達障害等の特性から特別な支援を必要とする児童が多く在籍しており、生徒指導や特別支援教育等に力点を置く必要がある学校である。一方、教職員の実態からすると、本年度も新規採用教員が２名配置され、採用 10 年以下の教員が約半数を占めており、若年教員の育成に力点を置く必要がある学校でもある。

昨年度は、「安心できる学級・学校づくり～生徒指導の三機能を意識して～」という研究テーマを設定し、生徒指導の三機能を意識した授業、学級生活をよりよくするために合意形成して実践する学級活動（１）や児童主体で取り組む特別活動に、学び合いながら組織として統一感を持って取り組んだ。しかし、授業中、自分の思いや考えを伝える児童に偏りが見られることや、学級経営、授業づくりにおける学級間のばらつきがあるという課題が残った。

今年度は、これまでの研究実践をベースに研究主題を「安心できる学級・学校づくり～生徒指導の三機能を生かし、子どもの主体性を育てる～」をとし、教職員が学級経営や授業づくり等について話し合いながら、組織として統一感を持って生徒指導の三機能を生かした授業や特別活動等に取り組むことにした。新学習指導要領の趣旨に沿った授業づくり、児童が自己存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、自己指導能力を高めていくことができるよう生徒指導の三機能を生かした指導、「５あ（挨拶・安全・後始末・集まり・遊び）」について、教職員間で共通理解を図りながら子どもたちが主体的に活動できる場を設定し、安心できる学級・学校づくりを目指していく。

３．研究の進め方と方法

（１）研究体制



（２）学校活性化・安定化研究事業

「活性化」…児童主体の活動の場や機会を多く取り入れる

「安定化」…組織として統一感を持った取組にする

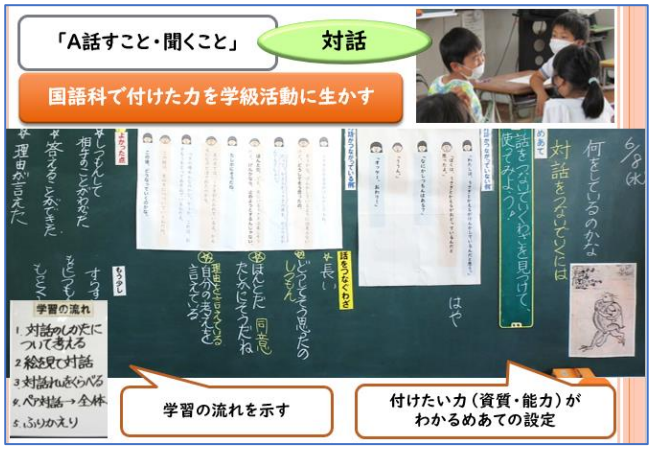
取組の２本柱（１）生徒指導の三機能を生かした授業づくり　（２）児童主体の学級・学校づくり

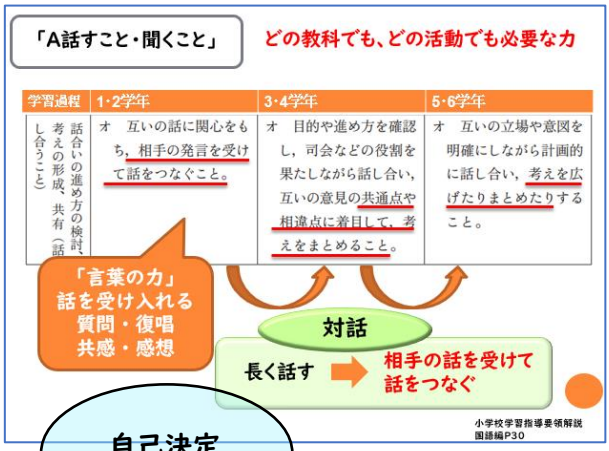
４．今年度の主な取組

（１）生徒指導の三機能を生かした授業づくり

研究授業〔第３学年：国語科「話す・聞く」〕

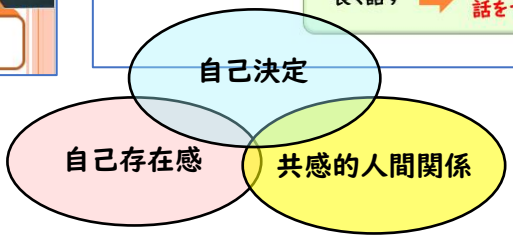
生徒指導の三機能が具体的に授業の中のどの場面で働いているのか、また意図的に働かせているのかということについて、全体共有を行った。国語科で付けた力を学級活動でも生かし、つなげる。





個人思考から展開する授業　・　子どもに問いかける

「対話とは何か、相手の話をつなぐ技がなぜ必要なの



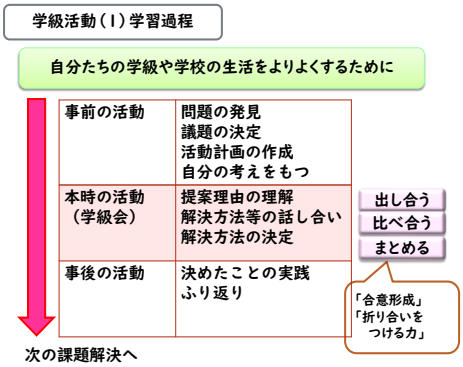
（２）児童主体の学級・学校づくり

①学級活動の取組

学級活動（１）…児童主体で集団の合意形成を図る取組

学級活動（２）（３）…教師主導で、個人の意思決定をする取組

今年度も児童主体で行う学級活動（１）に重点を置いた取組



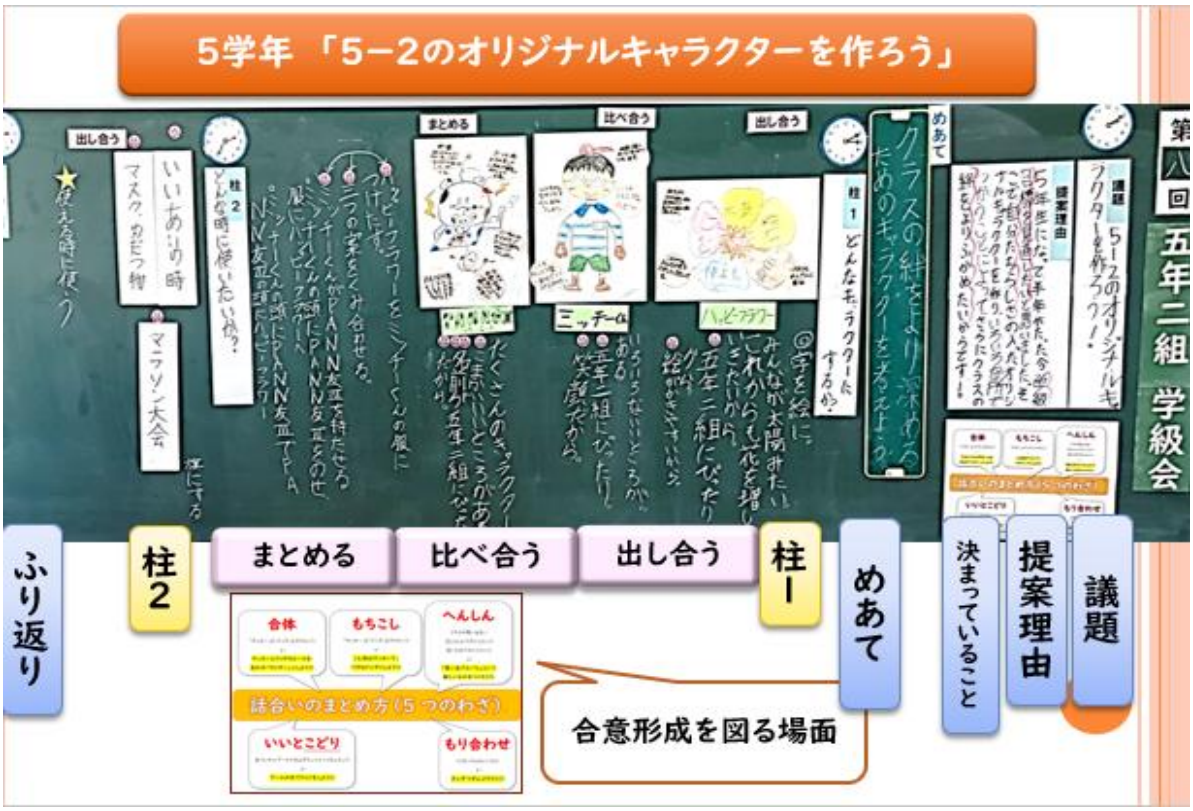
研究授業〔第５学年：学活（１）〕

議題「５－２のオリジナルキャラクターを作ろう」

事前の活動…計画委員が活動計画を作成、学級会ノートに一人ひとりが自分の考えを書く。背面黒板を活用し、キャラクターアイデアをしぼり、それぞれのキャラクターに込められた思いを共有し合う。本時までにキャラクターを選び、選んだ理由も学級会ノートに記しておく。本時を想定したシュミレーションを行う。

本時の活動…提案理由を話し合いの視点にして意見を出し合い、折り合いをつけながら合意形成を行う。話し合い全てを子どもたちに任せるのではなく、話し合いが停滞した場合には、教師が適切に介入する。

事後の活動…学級会で決まったことは実践し、ふり返りを各学級で行い、学活（１）の取組を学級の歩みとして掲示し、自己や学級の成長をふり返る。



②学校行事・児童会活動（代表委員会）

春の遠足　…縦割り班レクを６年生が中心となり計画、準備、実施、ふり返り

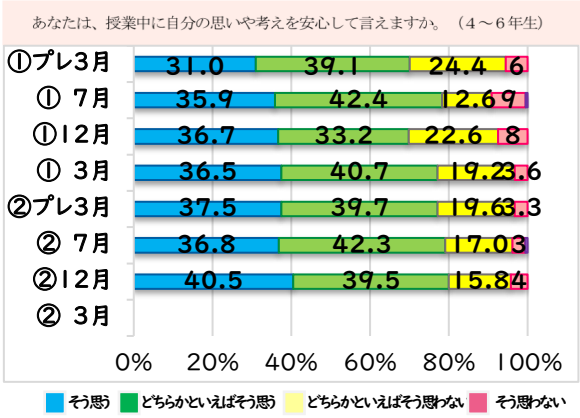
代表委員会 …学級活動（１）の流れで話し合い、決定した全校レクを実施

５．今年度の成果と課題【成果：○　課題：●】

○個人思考の場を取り入れたことで、自分の考えをもち、発表しようとする児童の姿が増えてきた。学級会で計画委員が、主体的・積極的に取り組む等、児童が対話の仕方を意識して、考えながら聞くなどの工夫ができ始めた。

○11 月の学校生活アンケートにおいて、「学校が楽しい」と 94%の児童が肯定的な回答をした。

○研究指定にかかるアンケート結果（４～６年）の、「あなたは、授業中に自分の思いや考えを安心して言えますか」の項目において、11 月は強肯定が７月より 5.7%向上した。



●全体の場での発表者が、まだ固定化している。相手意識、目的意識を持った聞き方ができていない児童も見られる。

●保護者との連絡や校内支援委員会で情報共有や支援方法等を共通理解して対応したが、「新たな不登校による年間 30 日以上の欠席」については、２月現在、４人となっている。

【取組を引き続き行う上で大切にすること】

・子ども同士がかかわり合い、お互いのことを理解できる場を設定する。

・国語科の「話すこと・聞くこと」で学習した話し方・聞き方、対話の仕方を他教科で取り入れる。

・子どもたちの言動や活動を　○認める　○褒める　○価値付けることを大切に、学級経営や授業づくり等について話し合い、検証・改善し続ける。